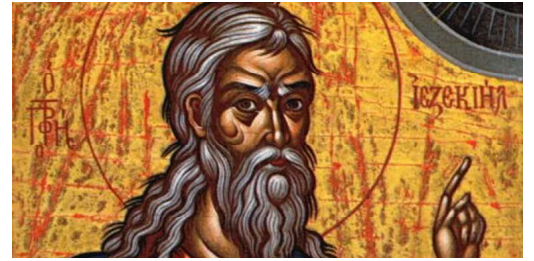


2023年8月13日 主日礼拝賛美歌

●『讚美歌』 20番

1. しゅをほめよわがころ いまわのときまで
わがいくるひのかぎり しゅをたたえまつれ
このみとたましい たまいしみかみを
ハレルヤ、ハレルヤ
2. たじろがぬころもて ヤコブのたのみし
いけるかみあおぐこそ げにさいわいなれ
こよなきはげまし うくるぞうれしき
ハレルヤ、ハレルヤ
3. あめつちとものみなを つくらせたまいし
わがかみのみちかいは ことごとはたされん
せかいをこぞりて いざしゅにつかえよ
ハレルヤ、ハレルヤ
アーメン



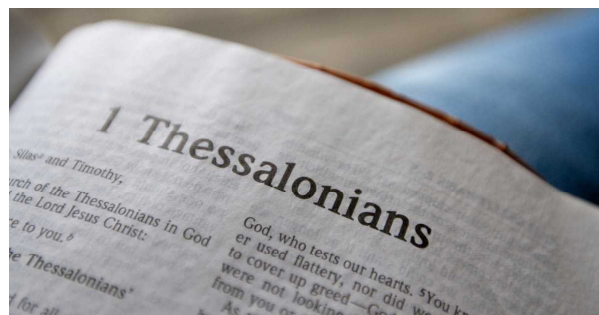
●『聖公会聖歌集』 422番

1. 長崎の空は 足もとから始まっている
大空が殉教の道行きを見守っている
失われた時を映しながら 天と地の分かれ道に
わたしは立っている
2. 長崎の空は 夜の闇におおわれている
大空が原爆の死の灰に染められている
失われた時を映しながら 天と地の分かれ道に
わたしは立っている
3. 長崎の空は 神の国へいざなっている
大空が地の民の信仰を抱きしめている
失われた時を映しながら 天と地の分かれ道に
わたしは立っている
新しい時を求めながら 天と地を結ぶイエスに
ここで出会うため
アーメン



● 『讚美歌 21』 494 番

1. ガリラヤの風かおるあたり
「神の御国は近づけり」と
告げられしより 既に久し
「来たませたまえ、主よ、御国を」
2. たたかいの日に いこいの夜に
御国をしたう あつき祈り
たゆることなく ささげられぬ
「来たませたまえ、主よ、御国を」
3. 憎み、あらい、あとを絶ちて
平和と愛は 世界に満ち
みむねのなるは いずれの日か
「来たませたまえ、主よ、御国を」
アーメン



● 『讚美歌』 545 番 A

1. 父の御神に 御子に きよきみたまに
むかしながらの み栄えあれや
ときわに アーメン、アーメン

